

2014年11月27日

2月の豪雪を教訓として今冬より雪害対策を強化します

去る2月の記録的な大雪により大きな輸送障害が発生し、ご利用のお客さまや沿線にお住まいの方々に多大なご迷惑をおかけしました。JR東日本八王子支社では、これまでも雪害対策は実施してまいりましたが、この雪害の経験を教訓として、今冬より新たな対策を策定いたしました。降雪の状況に応じて、可能な限り運転を継続するための体制と設備の整備を行ってまいります。

1 体制の整備

2月の豪雪を教訓として除雪体制を強化するとともに、駅でお客さまが一時的に過ごさなければならぬ場合を想定して備蓄品を配備します。

(1) 除雪体制（要員の派遣・配置）の整備

分岐器やホーム、踏切、車両のパンタグラフ等について、降雪状況により除雪に必要な要員配置を見直し、体制を強化します。

(2) 備蓄品の配備

防寒シート等の雪害用備蓄品を以下の各駅に配備します。

- ① 中央本線 相模湖～小淵沢間の各駅
- ② 青梅線 牛浜～奥多摩間の各駅
- ③ 五日市線 熊川～武蔵五日市間の各駅
- ④ 八高線 北八王子・小宮・東福生～高麗川間

(3) 沿線監視カメラの整備

中央本線高尾～小淵沢駅間の無人駅と交通量の多い踏切等を中心に、速やかな降積雪状況の把握を目的として12箇所にカメラを設置します。

(4) 社外への情報提供の強化

お客さまや報道機関などへの適宜適切な情報提供や、自治体等との情報交換を図ります。

2 設備の強化

降積雪時にも可能な限り運転を継続するために設備の強化を行います。

(1) ポイント不転換防止に向けた電気融雪装置の増備・増強

- ① 増 備 これまで整備を行ってきた電気融雪器 477 台に加えて、新たに 73 台の分岐器に電気融雪器を増備していきます。

(2014 年 12 月末までに 36 台・2015 年度に 37 台を増備)

- ② 増 強 運行上、特に重要な分岐器 26 台について、現行の電気融雪装置の融雪能力を向上させます。(2015～2016 年度に整備)

① 増備



枕木とレールの間の床板が温まる仕組みの電気融雪器

② 増強



①に加え、レール腹部についている板が温まるヒーターを設置

(2) 倒木・倒竹対策の強化

- ① 計画的な沿線木の伐採

倒木・倒竹による輸送障害を防止するため、これまで同様に計画的な沿線木の伐採を行います。

【主な線区における伐採実績と計画】

線区	過去の実績 ※	2014 年度計画
中央本線	約 12,000 本	約 1,700 本
青梅線	約 2,000 本	約 150 本
八高線	約 1,000 本	約 480 本

※2010～2013 年度累計

- ② ストッパーワイヤーの整備

中央本線高尾駅～甲府駅間の沿線 25 箇所に倒竹対策としてストッパーワイヤーを整備します。



▲ストッパーワイヤー（点線部分）

- ③ 青梅線における高圧電線のケーブル化

青梅線内の高圧電線について、倒木・倒竹による停電防止を目的として高圧ケーブル化を図ります。

2014 年度施工箇所：軍畑～沢井駅間（約 750m）

(2015 年度以降についても順次施工)

(3) 傾斜屋根からの落雪防止に向けた対策

傾斜屋根となっている橋上駅舎 7 箇所について、落雪防止のための雪止めを整備します。

(4) 除雪機械の整備

中央本線の高尾以西の 3 駅（四方津駅・酒折駅・小淵沢駅）に新たに「モーターカー・ロータリー（MCR）」を配備し、復旧体制を強化します。列車の運行が困難となる積雪量が想定される場合には復旧を優先して列車運行を見合わせ、MCR による除雪を行います。



▲排雪走行時